

## 中濃農林事務所の普及活動状況 令和4年7月25日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■新規就農者 巡回指導

今年度、中濃地域には2名の新規就農者があり、1名は冬春いちご専作、1名は冬春いちご+夏秋なすの複合経営を行っている。

7月4日、この2名に対していちご育苗の巡回指導を行い、生育・病虫害発生状況を確認した。いちご専作の生産者は、親苗を適正に管理して、子苗のポット受けを順調に進め、必要な苗数を確保できた。複合経営の生産者は、育苗施設の建設が遅れたこともあり、育苗管理が遅れており、速やかな子苗の確保に向けた今後の管理について指導を行った。

農業普及課では、この2名を含む就農5年以内の25名をフォローアップ対象者として重点的に指導し、関係機関と連携して早期の経営安定に向けて支援していく。(地域支援係)

#### ■農福連携 農業参入相談

7月8日に、美濃市で農業参入を検討している福祉事業所の作付け予定地の視察及び営農相談を行った。

この福祉事業所は、昨年度末からぎふアグリチャレンジ支援センター及び中濃農林事務所に相談に来られ、農業参入の準備を進めている。

作付け予定地の視察では、用水の確保等について確認した。営農相談では、美濃市の担当者出席のもと、福祉事業所が作成した営農計画について、栽培品目や必要資材等について助言を行った。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、福祉事業所の農業参入に向けて支援を行っていく。(地域支援係)



【作付け予定地】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■水稻（採種） 栽培研修会

7月7日、14日に、JAめぐみの水稻青空教室が開催され、農業普及課も出席した。

出穂4週間ほど前を目途に品種ごとに開催され、水稻株の幼穂や葉色を確認し、穂肥の適正な時期および量を指導した。7日は早生品種「あきさかり」で幼穂が確認され、平年並みの出穂期が予想された。14日は中生品種「ほしじるし」で幼穂が確認され、平年より早い出穂期が予想された。糯米の「モチミノリ」は14日には幼穂が確認された株と確認されない株がみられた。

農業普及課では、水稻種子の収量・品質を確保するため、巡回指導や研修会を通じて、栽培指導を行っていく。(地域支援係)



【青空教室】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■いちご親苗 巡回指導

中濃地域のいちご親苗は、関市いちご親苗生産組合により生産されているが、需給と品質の安定を図るため、種苗生産者2戸による試作に取り組み始めている。

6月28日、JAめぐみと連携していちご親苗の巡回指導を行った。いずれの生産者の苗も良好な草姿で、日々きめ細かい管理をされていることが確認でき、今後の管理について積極的に質問があり、良苗生産への意欲が伺われた。

農業普及課では、いちごの安定生産に不可欠な良質な親苗生産のため、定期的な巡回指導等を通じて栽培支援を行っていく。(地域支援係)

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■ 円空さといも 瀬尻小学校総合的な学習の時間支援

関市立瀬尻小学校では、総合的な学習の時間を活用して、3年生が地域特産品の円空さといもについて学習している。

7月8日に、里芋の夏季の管理を学習した。生産者とJAめぐみの及び農業普及課の職員が講師となり、4月12日に植え付けてからの管理や生育状況、作業方法等を説明した後、児童が除草とダツかき、追肥を体験した。ダツは根元から取り除く必要があり、児童は力を込めて不要なダツを引き抜いていた。

今後は、収穫作業や選果場見学などの学習を支援し、円空さといもについてより一層の理解を深めていく予定であり、引き続き学習を支援していく。  
(地域支援係)



【農業普及課の説明】